

# 国際結婚

## いいことばかりではありません

### 「お互いのコミュニケーションを大切に！」



「結婚」この心地よい言葉に酔えることの素晴らしさ、誰もが経験することでしょう。しかし国際結婚というちょっと一般の結婚よりハードルが多いことをよく理解しておきたいものです。センターで受ける相談の中から共通する国際結婚のもつ問題点をご紹介します。

## 法律の壁、生活の壁、暴力、国籍などハードルがいっぱい

今や、日本全国の毎年の婚姻数のおよそ5～6%が日本人と外国人との結婚です。東京など都市部では、10組に1組が国際結婚とも言われています（ちなみに、日本人女性と外国人男性の組み合わせよりも、日本人男性と外国人女性の組み合わせの方が4倍も多いそうです）。

国際結婚という言葉、なんとなくカッコいいイメージですが、実際はどうでしょうか。同じ国の男女でも、結婚となるといろいろ越えなければならないハードルがありますが、国際結婚の場合はこのハードルがさらにたくさんあると考えた方がいいでしょう。

まず言葉の問題は大きいです。たとえば日本語ができないということは、ものごとが理解できていないということとは違いますが、日本語を話せないからといって結婚相手を見下す態度をとる日本人配偶者も少なくないのです。言葉や文化の違いを乗り越えて一緒に暮らしていくためには、ゆっくりとでも相手とよく話す、共に過ごす時間をとる、など工夫が必要だと思います。

国際結婚したもののうまくゆかず、離婚にいたるケースもよくあります。離婚の場合、外国人配偶者の側がやはり不利です。日本の法律など必要な情報を得るのが難しく、自分にどのような権利があるのかもよくわからないからです。また、結婚によって在留資格を得ていた人にとっては、離婚は死活問題です。日本での生活ができなくなってしまう可能性すらあるのです。また、子どもをひきとった場合は生活費・子育て費用の工面に苦しむ人も少なくありません。

さらに、夫からの暴力を受けている女性たちの場合は深刻です。夫婦の間での暴力は、密室の中で起きるために外に知られにくく、エスカレートしてしまうことが多いのですが、暴力を受けているのが外国籍の女性の場合、彼女たちは二重三重に苦しめられることとなります。日本語が不自由なために夫からの暴力を他に訴えることができない（DV被害女性の救援システムについても情報を得られない）、夫との結婚によって在留資格を得ているので、逃げ出すことが在留資格を失うことにつながりかねない（ひどい場合には夫が入管に妻を通報することもある）、そして仕事を得る機会が少ないので、夫から逃げた後の生活手段がない、などです。

外国籍女性の側にも、日本人男性と結婚すると合法的に日本にいられる、という安易な気持ち

[www.ficcc.jp/foreign/](http://www.ficcc.jp/foreign/)

●「インフォメーションふじみの」のバックナンバーを見ることができます

で結婚する人がときどき見受けられますが、結婚する前に相手をよく観察しておかないと取り返しのつかないことになりかねません。

結婚生活の中で困っていること、悩んでいることがあったら、一人で抱え込まずに友人や支援団体に相談してみましょう。センターでも相談を受け付けています。 (文・前田 美穂)

●新シリーズ【外国籍市民の目から見た日本人の不思議-】年賀状

今月の疑問は「年賀状」についてです。日本に近い韓国、中国、台湾には似た風習がある年賀状ですがクリスマス・カードで新年の挨拶も済ませてしまう国も多く、年賀状文化がない外国から来た人にとって年賀状がどのようなものか疑問を持っている人も少なくないようです。日本でこの文化が始まったのは、奈良時代(710年)からとか。年始回りという年の始めの挨拶をする行事が、平安時代貴族や公家にもその風習が広まりました。しかし遠方などの人への年始回りができないその代わりとして交わされるようになったのが年賀状の始めだと考えられています。現在では、郵便局で販売する年賀はがきに新年を祝う言葉や近況報告を添えて出すことが多い年賀状ですが、1年以内に不幸(親族の死去)のあった家からは年賀状を出さない風習があり、その場合は年内に「喪中であるため年賀の挨拶を遠慮する」という内容の葉書を出すことが一般的になっています。最近では携帯電話の普及によってメールで済ますことも多くなっています。年賀はがきの右下には「お年玉くじ」が付いており、海外旅行や大型テレビなどの豪華商品、また切手シートなどが当たる抽選が毎年1月に行われる国民の大きなイベントの一つにもなっています。

(文・神田 歩)



新型インフルエンザ「ワクチン接種実施医療機関が各市町で発表されました

今各市町で新型インフルエンザワクチン接種ができる病院が発表されて

います。接種は大人1回、1歳から高校生までは2回、そして年齢制限の条件があったり、費用がかさむこともあります。病が重くならないための予防策として是非接種を受けましょう。

長い間インフォメーションの翻訳をしてくださっておられる方の新年の夢を語っていただきました。

■2010年 こんな年になったらいいですね! 翻訳者の見る「夢」

- 痛みを肌で本当に感じる人になってみたい 編集長・岩田 仁
- 新年には良い習慣を身に付けたいものです。例えば規則的な運動をしてみるとか本を身近に感じるようにすること。 韓国語翻訳 鄭 玄淑
- 不況のあおりを受け失業中・減収の親を持ち苦しい思いをしている公立小中学校で学ぶ日系児童生徒を目の当たりにし、また全国で就活中の学生さんたちのためにも、2010年は景気回復の年であることを祈りたい。 ポルトガル語翻訳・木場ひろみ
- 日本に戻って、そこで最愛の2人の息子達 Dario Jr. and David Ken とずっと一緒に暮らすこと。より良い方法で地域社会に貢献すること。 スペイン語翻訳 ダリオ・カスティジャノス
- FICEC に来る人たちを支援するために専門資格を取得することです。目標達成は難しく、時間もかかると思いますが、何度でも挑戦します。 英語翻訳 上島直美
- 来日後、ずっと目標に向かって努力を続け一つ一つの夢が実現しました! 今、ただ家族の健康と無事を祈ってます。 中国語翻訳 山崎友理
- 2010年の願い。それは、前に進むためにより大きなステップを踏み、数々のチャレンジに対して後戻りすることがないようにと願います。 タガログ語 チェリリン

[www.ficec.jp/living/](http://www.ficec.jp/living/)

●6カ国版の生活が「ト」を掲載しています